学校法人杏林学園 広報誌

2023 | 秋 |

あんず

Kyorin Magazine Anzu

vol.10

キャンパスカレンダー
2023年5月~10月

5月

三鷹の森ジブリ美術館からの要望を受け、医学部付属病院の看護師がスタッフおよそ120人に救護指導を行いました

2023年度初回となるオープンキャンパスが総合政策学部、外国語学部で開催され、およそ200人が参加しました

学生達の企画運営で、各地の特産品を紹介・販売するクラフトマーケットが開催。2回目となる今回は2日間でのべ3,000人が来場しました

5月から7月にかけて、各学部で前年度の優秀学生の表彰が行われました

5月下旬から8月上旬の期間、テキサスA&M大学などの学生24人が研修で本学に来学し、学生達と交流しました

6月

東京新大学野球連盟の春季1・2部リーグの入れ替え戦が行われ、本学硬式野球部は1部リーグへの昇格を決めました

「杏の実プロジェクト」として、三鷹キャンパスの杏を収穫して学生達によるジャム作りが行われました

あんず 2023 秋 | vol.10 |

Contents

02 …… キャンパスカレンダー
04 …… 令和4年度事業報告
05 …… 令和4年度決算報告
06 …… 人事情報、学事情報、新たな病院を開設予定、文科省 MDASH 応用基礎レベルに認定
07 …… 理学療法学専攻がパラスポーツ指導員資格認定校、アリーナが国際建築賞、学生表彰
08 …… 広がる地域連携、海外留学・実習の実施状況
09 …… 2023年度オープンキャンパス、学生が杏ジャム作り、ケーブルTVで「学びの杜」放送
10 …… ハイブリッドERを導入、臨床検査部の業務改善、G7広島サミットに救急医療協力
11 …… ドクターヘリ運航事業報告、外来棟ライトアップ

7月

国際交流の集いが開催され、学生や教職員174人がクイズや歌、手品等で楽しい時間を過ごしました

8月

今年度4部に昇格した本学男子バスケットボール部。
第99回関東大学バスケットボールリーグ戦が開幕しました

9月

JR八王子駅で行われた防災イベントで救急救命クラブ「KELC」に所属する保健学部生21人が、市民にAEDの使用法などを指導しました

世界アルツハイマーデーに伴い、認知症の啓発活動のため、外来棟をライトアップしました

およそ4万7千人が来場した井の頭公園での三鷹国際交流フェスティバルを本学の学生23人が、司会やブースの運営などでサポートしました

10月

今年度から「杏林祭」と名称が変更され、新たに医学部が加わった全学での学園祭が10月28日、29日に開催されました。およそ3,600人の来場でキャンパスはにぎわいました

令和4年度　事業報告

Ⅰ. 学校法人の概要（抜粋）

区　分		令和4年度		
設置する学部等		大学院：3研究科15専攻　　学部等：4学部15学科		
学生数（収容定員）（人）		令和3年度	令和4年度	令和5年度参考
		5,726 (5,690)	5,895 (5,743)	5,971 (5,743)
教職員数（人）	本務教員（兼務教員）	716 (　301)	711 (　312)	702 (　311)
	本務職員（その他職員）	2,494 (　　56)	2,507 (　　54)	2,551 (　　59)
	合計	3,210 (　357)	3,218 (　366)	3,253 (　370)

Ⅱ. 事業の概要《主要実施事業抜粋》

区　分		令和4年度　事業計画	令和4年度　事業報告
教育・研究活動	医学部	新科目の円滑な導入に向けた検討 医学教育分野別評価受審の過程で明らかにされた改善必要事項への対応（継続）	・免疫学と遺伝医学を新たな履修科目とした。基礎と臨床の教室が共同し、免疫学は新規の免疫学的診断手法や免疫療法等についての、遺伝医学は遺伝子解析や遺伝子治療等についての準備教育に相当するプログラムとしてカリキュラムに取り入れた。 ・教育プログラムや教育環境、学修成果の評価、学生支援などに関わる課題を整理した上で教務委員会や教授会等で具体的改善策を検討、教育の継続的改善を実践した。改善状況を一般社団法人日本医学教育評価機構（JACME）に提出するとともに、大学ホームページでの公開や教授会等に提示し、教員へ周知した。
	保健学部	医療保健領域のデータサイエンス教育の充実	・内閣府が掲げるSociety 5.0に対応できる人材育成のためデータサイエンス基礎教育を開始した。これにより文部科学省の掲げる「数理・データサイエンス・ＡＩ教育プログラム（リテラシーレベル）」の大学認定を得た。全学組織としてデータサイエンス教育研究センターが開設されたことを受け、データサイエンスに精通した医療・保健従事者として社会に貢献できる人材の育成を開始した。
	総合政策学部	新カリキュラムのスムーズな導入	・学生の数理・データサイエンス等の関心や理解を高める目的としてデータ・デザイン・プログラムを履修科目とし、文部科学省による「数理・データサイエンス・ＡＩ教育プログラム（リテラシーレベル）」の認定を受けた。令和５年度は「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度（応用基礎レベル）」の申請を行う。コミュニティ・ベースド・ラーニング（CBL）については、夏季休暇と春季休暇期間中に、あわせて30人を7つの地域に2週間から1か月間の地域留学に派遣することができ、各地域の関係者の協力のもと課題発見と解決に向けた取組みを行った。
	外国語学部	成果の測定とカリキュラム・マネジメントの確立	・大学全体として新たにアセスメント・プランが策定されたことを受け、語学試験結果やGPA、退学率の推移等を定期的に検証し、適宜必要な対策を講じることで質保証に努めた。
研究支援		科学研究費補助金の獲得のための支援拡充 産学官連携の推進	・科学研究費補助金の応募数ならびに採択数向上を目指して、過年度の状況を検証・分析を行い、申請が少ない文系学部研究者向けにセミナーを実施した。英語による論文作成能力・研究成果発表能力向上に向けた講座開催の検討を行い、開催する予定とした。 ・AP TECH株式会社と連携し、ウエアラブル端末を活用した高齢者の見守りサービス実現に向けてプロジェクトを進めている。「メディテックバレーコンソーシアム」を通じ、見守りサービスやオンライン診療など地域課題解決のための取り組みの推進など企業(産)・八幡平市(官)と連携し、地域課題の解決を進めた。
就職状況		・「より早く」学生の意識とスキルの向上 ・「より深く」教員や企業との連携 ・「よりきめ細かく」学生への支援と指導	・低学年のなるべく早い時期から就職に対する意識を高めてもらうため、より早く動けるよう就職支援システムの利用対象をこれまでの3年生以上から1、2年生に拡げた。インターンシップが採用に直結するルールへの変更で就職活動に占めるインターンシップや就業体験の比重が高まりインターンシップ先の選定や選考対策の講座を低学年にも対象を拡げて実施した。 〈就職率〉 保健学部　97.9%（前年度 98.4%）　外国語学部 98.1%（前年度 99.5%） 総合政策学部 99.1%（前年度 96.2%）　3学部合計 98.2%（前年度 98.3%）
学生支援		学生相談室業務の運用の見直し 高等教育の修学支援新制度への対応	・週5日の相談体制を確立したが、相談件数が大幅な増加傾向にあり、専任者を学生支援センター所属の教員2名体制により手厚い学生のフォローができる体制とした。 ・増加傾向にある修学支援新制度は、多くの学生が対象となり給付対応を継続している。
高大連携		連携校に対する学部教育のPR 連携校との関係維持、強化	・高校教員を対象としたオンライン形式でのセミナーの開催や高校への出張講義を行い、大学教育を高校生に体験する機会を提供した。 ・新たに近隣校と高大連携協定を締結、また高校関係者参加の杏林高大接続ラウンドテーブルを2回開催し、各高校の入試対策・進路指導状況等の情報共有や入試関連情報の集積を行い、新たな高大接続の方策を探った。
付属病院		健全な病院経営と特定機能病院としての地域医療への貢献 1. 健全な病院経営と診療内容の質的向上 2. 院内感染防止対策の強化と医療安全の推進 3. 職員の勤務環境改善と人材育成の推進 4. 地域医療機関との連携強化 【令和4年度患者動向】 ○外来患者数 年度累計600,498名（前年度601,785名） 前年度比99.8%：1,287名減 ○入院患者数 年度累計 288,415名（前年度296,309名） 前年度比97.3%：7,894名減	①・DPCデータを基に、加算算定等を積極的に進めた。 ・手術室の効率的運用により手術件数は12,960件と最も多かった2019年度と同程度に回復した。 ・周産期医療の充実を目的とし、無痛分娩を麻酔科医による安全な体制で開始した。 ・高難度新規医療技術の導入促進に際し、婦人科、肝胆膵外科などにおけるロボット支援内視鏡手術を開始した。 ②・新型コロナウイルス感染症の感染防止対策の徹底した。 ・医師、研修医からのインシデントレポート提出の推進を進め、各種医療安全関連セミナー等、職員への啓蒙・教育活動を継続して行った。 ③・令和6年度からの「医師の働き方改革」の各水準指定に向けて、勤務実態把握のための調査や勤怠管理システム再検討WGを実施し、タスクシフト等を推進して、受審ガイドラインに沿った時短計画作成を進めた。 ・診療支援室を設置して医師事務作業補助者の業務管理とスキル育成を進めた。 ④・連携ネットワークシステムを導入し、転院調整など近隣医療機関の連携を強化した。

事業計画の詳細は、大学ホームページ「経営・財務情報」に掲載しています。

令和4年度　決算報告

■ 資金収支計算書の概要

総資金収入は678.14億円、総資金支出は664.63億円の規模である。令和4年度の前年度繰越支払資金は98.58億円。また、令和4年度決算の翌年度繰越支払資金は、67.84億円となり、30.74億円の資金が減少した。

収入の部

（単位：億円）

科　目	令和4年度予算	令和4年度決算	差　異
学生生徒等納付金収入	114.43	116.04	△　1.61
手数料収入	4.65	4.58	0.07
寄付金収入	5.36	4.75	0.61
補助金収入	22.21	44.95	△ 22.74
資産売却収入	0.00	0.00	0.00
付随事業・収益事業収入	5.67	4.02	1.65
医療収入	405.84	394.15	11.69
受取利息・配当金収入	0.09	0.16	△　0.07
雑収入	3.60	4.65	△　1.05
借入金等収入	0.00	0.00	0.00
前受金収入	18.37	22.26	△　3.89
その他の収入	81.35	82.55	△　1.20
小　計	661.62	678.14	△ 16.52
資金収入調整勘定	△　82.49	△100.92	18.43
前年度繰越支払資金	103.36	98.58	4.78
収入の部合計	682.49	675.79	6.70

支出の部

（単位：億円）

科　目	令和4年度予算	令和4年度決算	差　異
人件費支出	231.35	233.62	△　2.27
教育研究経費支出	33.82	32.81	1.01
医療経費支出	204.69	216.03	△ 11.34
管理経費支出	27.40	31.56	△　4.16
借入金等利息支出	1.45	1.41	0.04
借入金等返済支出	9.94	9.94	0.00
施設関係支出	26.76	16.84	9.92
設備関係支出	18.22	20.73	△　2.51
資産運用支出	11.51	10.92	0.59
その他の支出	92.89	90.73	2.16
小　計	658.07	664.63	△　6.56
資金支出調整勘定	△　57.28	△　56.67	△　0.61
翌年度繰越支払資金	81.70	67.84	13.86
支出の部合計	682.49	675.79	6.70

※百万円未満を切り捨てており、合計額においては差異を生じる場合がある。

■ 事業活動収支計算書の概要

事業活動収入計は574.07億円、事業活動支出計は569.07億円である。その結果、基本金組入前当年度収支差額は5億円の収入超過となった。基本金を組み入れた後の当年度収支差額は△59.40億円。令和4年度の前年度繰越収支差額は△926.66億円。翌年度繰越収支差額は△985.74億円となった。

（単位：億円）

		科　目	令和4年度予算	令和4年度決算	差　異
教育活動収支	事業活動収入の部	学生生徒等納付金	114.43	116.04	△　1.61
		手数料	4.65	4.58	0.07
		寄付金	4.14	3.53	0.61
		経常費等補助金	19.35	41.61	△　22.26
		付随事業収入	5.67	4.02	1.65
		医療収入	405.84	394.15	11.69
		雑収入	3.49	3.60	△　0.11
		ア）教育活動収入計	557.60	567.55	△　9.95
	事業活動支出の部	人件費	235.78	235.41	0.37
		教育研究経費	50.95	49.58	1.37
		医療経費	233.29	245.58	△　12.29
		管理経費	32.42	34.93	△　2.51
		徴収不能額等	0.01	0.05	△　0.04
		イ）教育活動支出計	552.47	565.57	△　13.10
	A）教育活動収支差額		5.13	1.97	3.16
教育活動外収支	事業活動収入の部	受取利息・配当金	0.09	0.16	△　0.07
		その他の教育活動外収入	0.00	0.00	0.00
		ウ）教育活動外収入計	0.09	0.16	△　0.07
	事業活動支出の部	借入金等利息	1.45	1.41	0.04
		その他の教育活動外支出	0.00	0.00	0.00
		エ）教育活動外支出計	1.45	1.41	0.04
	B）教育活動外収支差額		△　1.36	△　1.25	△　0.11
経常収支差額（A+B）			3.77	0.72	3.05
特別収支	事業活動収入の部	資産売却差額	0.00	0.00	0.00
		その他の特別収入	4.56	6.36	△　1.80
		オ）特別収入計	4.56	6.36	△　1.80
	事業活動支出の部	資産処分差額	1.26	0.36	0.90
		その他の特別支出	0.00	1.72	△　1.72
		カ）特別支出計	1.26	2.08	△　0.82
	C）特別収支差額		3.30	4.27	△　0.97
基本金組入前当年度収支差額（A+B+C）			7.07	5.00	
基本金組入額			△　72.98	△　64.40	
当年度収支差額			△　65.91	△　59.40	
前年度繰越収支差額			△ 918.04	△ 926.66	
基本金取崩額			0.00	0.31	
翌年度繰越収支差額			△ 983.96	△ 985.74	

事業活動収入計（ア＋ウ＋オ）	562.26	574.07
事業活動支出計（イ＋エ＋カ＋予備費）	555.19	569.07
事業活動収支差額（A＋B＋C）	7.07	5.00

※百万円未満を切り捨てており、合計額においては差異を生じる場合がある。

（単位：億円）

※	減価償却額合計（教育活動収支に含む）		50.73	51.15	△　0.42
	内訳	教育研究経費	17.12	16.53	0.59
		医療経費	28.60	29.52	△　0.92
		管理経費	5.01	5.10	△　0.09

予算・決算の詳細は、大学ホームページ「経営・財務情報」に掲載しています。

人事情報

■ 2023年7月 就任 教授

保健学部 臨床心理学科
柳田 多美

■ 2023年6月 名誉教授

医学部 物理学教室
遠山 満

学事情報

2023年9月卒業・学位授与者数

	学部	学生数
学部	総合政策学部	10
	外国語学部	7
学部合計		17
	研究科	計
大学院	医学研究科	3
	保健学研究科	2
	国際協力研究科	4
大学院合計		9
総計		26

2023年9月入学者数

	研究科	学生数
大学院	医学研究科	3
	国際協力研究科	2
合計		5

新たな病院を開設予定（2024年4月）

2024年4月から、現在の医学部付属病院に加え、新たに付属病院を開設する予定です。

宗教法人立正佼成会が運営する杉並区和田に所在する立正佼成会附属佼成病院の病院事業について、同法人から事業譲渡の申し入れをうけ、2023年5月31日に学校法人杏林学園との間で事業譲渡契約を締結しました。現在、開院に向けて行政各機関への手続きを進めています。（病床数：340床予定）

総合政策学部カリキュラムが文科省「数理・データサイエンス・AI教育プログラム（応用基礎）」に認定

総合政策学部では、様々なデータをもとに社会の課題を発見し、解決できる人材を育成するため、「データデザインプログラム（DDP）」というカリキュラムを導入しています。この中で、データサイエンスに関連する科目群が、文部科学省の定める「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム（応用基礎）」に認定されました。この認定制度は、数理・データサイエンス・AIを活用して課題を解決する実践的な能力を育成することを目的として、文部科学大臣が認定及び奨励しているものです。

本学は、昨年度にリテラシーレベルの認定を受けていますが、今年度は総合政策学部で、さらに進んだ応用基礎レベルが認定されました。認定科目を修得した学生には認定証が授与されます。

保健学部理学療法学専攻がパラスポーツ指導員資格認定校に指定

リハビリテーション学科理学療法学専攻は、日本パラスポーツ協会からパラスポーツ指導員資格認定校に指定されました。本専攻では、障害者スポーツ演習、スポーツ障害理学療法学などのカリキュラムを通して、障害者のリハビリなどを学んでいます。また、ボッチャ競技の普及活動などにも取り組んでいます。

今年度から、所定の科目を履修し資格申請を行うことによって、在学中に「初級パラスポーツ指導員」の資格を取得することが可能になります。

松田進勇記念アリーナが国際建築賞を受賞

2021年に三鷹キャンパスに竣工した松田進勇記念アリーナが、世界の優れた建築物に贈られる国際建築賞を受賞しました。この賞はアメリカのシカゴにある建築デザイン博物館「シカゴ・アテナエウム」が、毎年、世界の新しい建築物を対象に、創造性とインスピレーションにおいて卓越したデザインの建物を表彰しているものです。2023年は850を超える最終候補の中から松田進勇記念アリーナを含む85の建築物が選ばれました。

松田進勇記念アリーナは、「森のアリーナ」をテーマにつくられ、周囲の豊かな自然環境が感じられるように窓を配置し、建築材料には自然の素材を多用しているほか、屋根の構造にも独自の工夫が凝らされています。

●設計施工：竹中工務店　●延床面積：4,943㎡
●構造：地上3階　鉄骨・鉄筋コンクリート造

学生表彰

■ 2022年度成績優秀学生

本学では、各学部学科（専攻）・各学年から、当該年度の成績優秀者を表彰しています。
2022年度は4学部で50名が対象となりました。

医学部	保健学部	総合政策学部	外国語学部
5名	30名	6名	9名

■ 2022年度特別表彰学生

難関資格・検定や課外・社会活動等できわめて優秀な実績をあげた学生を表彰しています。
2022年度は3学部で5名が対象となりました。

保健学部	総合政策学部	外国語学部
2名	1名	2名

■ 2022年度学部賞

各学部が認めた優秀な実績・功労を残した学生を表彰しています。
2022年度は4学部で77名・1団体が対象となりました。

医学部	保健学部	総合政策学部	外国語学部
1名、1団体	11名	31名	34名

広がる地域連携

本学では、学部間連携で多様性のある専門性を活かし、地域に貢献する活動を行っています。これまで自治体、企業合わせて10機関と連携を深めてきましたが、今年度新たに3つの連携協定を締結しました。これにより一層、地域連携を進めていきます。

① 社会福祉法人「むうぷ」との包括連携協定

8月14日に包括連携協定を締結しました。本学との30年以上にわたる連携を深化させるべく、地域福祉の視点から活力あるまちづくりの推進に向け、今後より一層連携を強化していきます。

② 愛知県田原市との包括連携協定

8月18日に包括連携協定を締結しました。今後本学での学部間連携により、田原市の観光資源と自然環境を活かしたウェルネスツーリズムを推進していきます。

③ 三鷹市・特定非営利活動法人「Mitakaみんなの防災」との防災協力体制構築に関する協定

9月14日に防災協力体制の構築に関する連携協定を締結しました。学生や教職員、市民などに対して自助と共助の防災意識の啓発活動を行うほか、防災ネットワークの構築、地域の災害リスクの定期的評価・点検などにより、災害に強いまちづくりを目指したより発展的な取り組みを展開していきます。

社会福祉法人むうぷと協定を締結

愛知県田原市とオンラインで協定を締結

三鷹市・特定非営利活動法人「Mitakaみんなの防災」と協定を締結

海外留学・実習の実施状況

2023年は新型コロナウイルス感染症による渡航制限が各国で解除され、現地留学が再開されています。今年10月時点で既に留学が終了した学生と渡航中の学生は合わせて78人、短期研修・インターンシップ参加者は14人となりました。医学部での海外臨床実習は、4年ぶりの実施となり、今年はのべ25人の学生が5月から7月にかけて様々な地域の医療機関で実習を行いました。今後も状況に応じた支援を行い、安全な留学体制を整えて行ってきます。

■ 留学：総合政策学部、外国語学部

国	人数	国・地域	人数
アメリカ	4	中国	12
イギリス	25	台湾	2
カナダ	11	韓国	1
オーストラリア	19	タイ	2
マルタ共和国	1	マレーシア	1

■ クリニカルクラークシップ（海外臨床実習）：医学部

国	人数	国・地域	人数
アメリカ	11	イタリア	3
イギリス	3	台湾	1
カナダ	1	フィリピン	2
フランス	4		

■ 短期研修・インターンシップ：総合政策学部、外国語学部

国	人数	国	人数
アメリカ	6	カンボジア	3
イギリス	3	ベトナム	2

2023年度オープンキャンパス

5月から8月にかけて全学部合わせて10回のオープンキャンパス（オンライン含む）が三鷹・井の頭両キャンパスで開催されました。事前予約制で行われ、昨年度同期間比の約1.6倍となる9,000人超の高校生や保護者などが参加しました。各学部では、学部・学科紹介や入試説明、個別相談、模擬講義、実習体験などが行われた他、学生広報スタッフは、趣向を凝らしてYouTubeでのライブトークショウや対面での相談会などを行いました。

また、10月には学園祭に合わせて、保健学部、総合政策学部、外国語学部で個別相談会が開かれました。来年2月、3月には、来年度の入試に向けたオープンキャンパスが実施される予定です。

医学部：展示

保健学部：実習体験

外国語学部：教員個別相談会

総合政策学部：学部学科説明

キャンパスの杏の実を収穫して学生がジャム作り

「杏林」は中国の三国時代の名医が、患者から治療代を受け取る代わりに杏の苗を植えてもらい、収穫された実を穀物と交換して貧しい人々を助けたという故事に由来します。立派な人格を備え、社会に貢献できる人材の育成を目指す本学では、創立当初からキャンパス内に杏の木を植え、今では三鷹キャンパス構内は杏の木が生い茂っています。

「毎年初夏に沢山実る杏を活かして何かできないか」との渡邊 卓学長の呼びかけのもと「杏の実プロジェクト」がはじまり、今年6月に医学部1年から3年生の有志学生が、生物学教室の教員達とジャム作りを行いました。学生デザインのラベルが貼られた瓶詰めのジャムは、臨床実習で多忙な 5 年生に日ごろの感謝とエールを込めて9月に贈呈されました。また、同日試食会が行われ、杏のシロップ漬けやゼリーなども振る舞われました。

ケーブルTV J:COM 武蔵野・三鷹で「学びの杜」を放送

杏林大学では、2021年度から本学の特色を活かした市民講座“学びの杜”をケーブルテレビJ:COM武蔵野・三鷹で放送しています。今年度は、以下6つの講座を順次放送しています。放送後の動画は、大学・病院HPからも視聴できます。

動画はこちら▶

- たばこの害と禁煙の重要性～禁煙により健康な生活を送るために …… 医学部 石井晴之 教授
- 短歌を楽しもう！長寿の歌人の作品をよむ …… 外国語学部 河路由佳 特任教授
- 介護予防とリハビリテーション～呼吸法も取り入れたトレーニングの実践　保健学部 一場友実 准教授
- いま増えている炎症性腸疾患 ～課題と治療 …… 医学部 久松理一 教授
- 子育てを支える地域作り～子供や子育て家庭を取巻く環境や課題 …… 保健学部 加藤雅江 教授
- 知っておきたいヒートショック対策 ～入浴・サウナを楽しむために …… 医学部 長谷川 浩 教授

医学部付属病院

世界に例のないハイブリッドの救急救命設備を導入

当院は高度救命救急センターに、手術室と血管撮影装置、CTの3機能を組み合わせた最新設備「ハイブリッドER」(Hybrid Emergency Room)を導入し、5月から運用を開始しました。

この設備は、手術も可能な血管撮影装置にCTを組み合わせることで、これまで別々の場所で行われていた開腹・開胸手術、カテーテル等の治療(IVR)、CT撮影による診断の3つの機能を全て高度救命救急センター内に集約したものです。これにより、救急搬送された患者さんの診断・治療をより迅速に行うことが可能となります。

今回導入されたシーメンス社製の装置は、従来の全身用の血管撮影装置に加え、心臓用の血管撮影装置も組み合わせた「ダブルCアーム」となり、世界に類を見ない新しい装置です。これによって精密な画像を基にした全身の治療が可能となり、救急を要する患者さんに対し、これまで以上に迅速に対応できるようになりました。

循環器内科や脳神経外科、脳卒中科、救急科など多くの診療科で、心血管内や脳血管内の治療、外傷による多臓器損傷などの治療に活用していきます。

円滑な検査運用をめざして臨床検査部の業務改善

当院では、患者さんの検体検査をより円滑に行うために臨床検査部の業務改善を進めています。まず5月から、新規に導入した検体検査システムが稼働しています。これは、コレステロールやクレアチニンなどの生化学検査を行う分析装置「TBA™-FX8」3台と、検査項目ごとに採血管から血液を検査容器に分注し、搬送するシステム「MPAM+™」です。新しい分析装置は、従来に比べ20項目多く検査試薬を搭載することができます。これにより、外部に委託していた一部の検査項目を院内で分析できるようになり、幾つかの項目については1〜3日程早く検査結果が出せるようになります。また、検体を仕分けし、検査装置へ搬送するという一連の流れがより円滑に自動化されたことで、全体の検査スピードが向上しました。

さらに、年末までに血液検体の自動冷蔵システムを導入する予定です。これによって、入院患者さんを中心とした検体の再検査が格段に早く行えるようになり、患者さんの病状把握や治療を円滑にすることが可能となります。

G7広島サミットの救急医療に協力

5月に開催されたG7広島サミットに救急医療チームを派遣しました。現地で活動を行ったのは、高度救命救急センターの医師2人、看護師1人、事務職員1人です。サミットへの救急医療チームの派遣は、2000年の九州・沖縄サミットを初回として、今回で5回目となりました。サミット前日の5月18日から終了翌日の22日まで、当院や北海道、九州の大学病院など合わせて5つの病院から派遣されたチームが、各都道府県から派遣された厚生労働省関係の職員とチームを組み、日勤、準夜、深夜とシフト制を取りながら、24時間体制で国内外の要人とメディア関係者の救護や診療を行いました。

今回のサミットでは、ウクライナのゼレンスキー大統領が急きょ参加したこともあって、サミット会場や周辺では厳重な警備体制が敷かれ、救急医療スタッフも緊張感が漲る中での対応となりました。

東京都ドクターヘリ運航事業の報告

当院は東京都ドクターヘリの基地病院として、都の救急医療の拡充に貢献しています。ドクターヘリは重症の患者さんに病院到着前から専門的な医療を提供するためのシステムで、救急医療を専門とする医師及び看護師を乗せて出動します。東京都では2022年3月の運航開始から1年が経過し、これまで多くの患者さんの診療に携わってきました。そのなかには、山間地域で発生した交通事故や都市部で発生した重症の心血管疾患の患者さんも含まれていました。

ドクターヘリの活動が予後改善につながったケースは複数認められており、当院や事業実施主体である東京都には多くの感謝の声が寄せられています。東京都や市区町村が実施する防災訓練に参加するなど大規模な災害の発生に対する備えも進めています。日々の出動要請は増加傾向にあるなかで、これからも自治体や医療機関等との連携を一層強化し、安全かつ効果的な運用に努めていきます。

啓発活動として外来棟をライトアップ

当院では、世界で展開される様々な疾患に関する啓発活動に合わせて、外来棟をライトアップして疾患への理解や予防啓発に取り組んでいます。

5月には、世界50ヵ国以上の患者団体が主導するキャンペーン“ワールドIBDデー”に合わせ外来棟4階を紫色にライトアップしました。IBD(炎症性腸疾患)は日本では難病に認定されており、当院消化器内科では、現在1,000人を超える患者さんの診療を専門性の高い医師等のチームで行っています。

9月には、“世界アルツハイマーデー”に合わせてオレンジ色にライトアップされました。東京都認知症疾患医療センターでもある当院では、地域医療機関や市、地域包括支援センターなどと緊密に連携し、認知症の方やそのご家族が安心して生活できるよう、これからも診療や地域の認知症支援体制の充実に努めていきます。

ワールドIBD(炎症性腸疾患)デー

世界アルツハイマーデー

あたたかいご支援に感謝

学生支援のための教育研究募金、医療従事者が治療に専念できる環境を整備するための付属病院へのご寄付等に多くの皆様からご支援を賜りました。杏林大学を支えてくださる皆様のご支援とご理解に感謝申し上げます。寄付状況は記載のとおりです。

■2023年度寄付状況

4月から9月までの種類別件数と金額等を報告します。

寄付の種類	累計件数	累計金額
教育研究募金	9件	26,925,510円
医学部付属病院へのご寄付	20件	31,365,454円
奨学寄付金	55件	74,153,707円
杏林大学リサイクル募金	11件	23,755円

皆様からのご寄付は、それぞれの使途・目的に沿って、有効に活用させていただいております。

■お問い合わせ先

杏林学園募金事務局(経理課内)
〒181-8611東京都三鷹市新川6-20-2
TEL:0120-50-1665(フリーダイヤル)
E-mail:bokin@ks.kyorin-u.ac.jp

杏林学園募金サイト

あんず Anzu 2023 | 秋 |

広報誌 あんず Vol.10

2023年11月発行

発　　行　学校法人 杏林学園

企画・編集　広報室
〒181-8611 東京都三鷹市新川6-20-2
TEL.0422-44-0611